



DAIDO CAMPUS

No.86 2015.12



写真提供：アルバム委員会



大同大学
DAIDO UNIVERSITY

ハンドボール特集

女子ハンドボール部

東海学生ハンドボール春季リーグでの初優勝が中日新聞で紹介されました

6月23日(火)中日新聞に、本学的女子ハンドボール部が、東海学生ハンドボール連盟女子1部の春季リーグ戦で創部6年目にして初優勝を飾ったことが紹介されました。

記事では、2011年から、春、秋通じて八連覇中だった強豪・中京大を破っての快挙で、七戦全勝の「完全優勝」だったことや、バブルコロナ五輪予選で日本代表だった斎藤監督が「小柄だがスピードが逸品」とたたえる、4年の木村美月主将が42得点を挙げて得点王とMVPの二冠に輝く活躍であったことが紹介されました。木村主将は「5、6点開いても『同点打と思って!』と声を掛け合って集中力を切らさなかった。目標の中京を破っての優勝が本当に嬉しい」と喜んでいました。また、8月に豊田市で開かれる西日本インカレに出場することも紹介されました。

大同大創部6年目初V



ハンドボール部 3年 原田一沙さん

日本代表男子ハンドボール U21 に選出され、世界ジュニア選手権に出場！ 壮行会を開きました！



6月24日(水)、男子ハンドボール部部長の水野義雄教授(教養部 保健体育教室)、監督

の佐藤壮一郎准教授(経営情報専攻/男子ハンドボール部監督)、部員たちも参加して、原田さんの壮行会を開きました。

原田さんは「このたびはこのような会を開催していただき誠にありがとうございます。僕自身も日本代表に選ばるのは初めてのことで、実感がわいていません。大会では自分のベストを尽くせるよう頑張りたいと思います。応援よろしくお願

します」と話しました。

5月25日(月)～31日(日)と6月12日(金)～19日(金)、東京・味の素ナショナルトレーニングセンターで行われた強化合宿での選考を経て、18人の代表メンバーに選出された原田さん、7月20日(月)からブラジルで開催されるハンドボール世界男子ジュニア選手権に出場しました。そして、佐藤准教授が、昨年の8月に行われた第14回男子ジュニアアジア選手権に引き続き、ヘッドコーチを務めました。

ハンドボール部 3年 原田一沙さん

雑誌「スポーツイベントハンドボール」に紹介されました

ハンドボール雑誌「スポーツイベントハンドボール」の11月号で、本学ハンドボール部3年 原田一沙さんが紹介されています。

リオデジャネイロ・オリンピックアジア予選開幕直前展望号として発行された11月号で、原田さんは「Who is the NEXT ONE」という、これからの日本球界をけん引する可能性を秘めた「ネクストワン」を全国各地から発掘し、紹介

していくコーナーに登場。基本プロフィールからハンドボール歴、練習のない休日の過ごし方の紹介から、8月に行われた第20回世界男子ジュニア選手権に出場し、センターとしてチームの司令塔を担い、年代別日本代表デビューをしたこと、初めての世界大会では「実際に戦ってみて体の大きさに驚いた」と世界との差を実感して帰国したことなどが紹介されました。



先生達も大活躍

女子ハンドボール監督 齊藤慎太郎教授(情報学部 総合情報学科 経営情報専攻)
ユニバーシアード出場

男子ハンドボール監督 佐藤壮一郎准教授(情報学部 総合情報学科 経営情報専攻)
ジュニア世界選手権出場

佐藤壮一郎監督・ハンドボール部 3年 原田一沙さん

日本代表男子ハンドボール U21、本学で最終合宿を行いました！



第20回世界男子ジュニア選手権に出場するメンバーが、開催地のブラジルに渡る前に最後の強化合宿として、本学にて練習を行いました。

チームを率いるのは本学男子ハンドボール部佐藤壮一郎監督。同監督を率いる U-21 日本代

表が昨年アジア選手権で見事3位に入り、予選を勝ち上がって世界選手権への出場権を獲得しました。これは日本ハンドボール史上初の快挙です。

そして、この世界選手権には昨年のアジア選手権を戦った主力メンバーに加え、新たに昨年のインカレからこの春の学生リーグで存在感を示した選手たちが選出され、その中の1人に本学3年生の原田一沙選手も見事選出されました。過去には、本学からもアジア選手権の日本代表に選出された選手はいましたが、日本ハンドボール史上初

の世界選手権出場に相まって、原田選手が本学ハンドボール部史上初めての日本代表選出です。

チームを率いて史上初の快挙を成し遂げた佐藤監督に大会に向けた抱負と目標を伺ったところ、ずばり「世界ベスト8」と力強いお言葉が返ってきました。



世界ジュニア選手権試合結果

日本代表 1勝1分3敗

初戦は強豪地元ブラジル！

本学佐藤壮一郎准教授率いる日本チームは、強豪地元ブラジルと開幕戦を戦いました。

結果は31対30(前半：14-15 後半：17-15)で惨敗。前半は、原田一沙選手が、2本のシュートを決め1点差でリードしたものの、ブラジルは後半開始3分までに3得点を決め挽回。日本は、その後、反撃に転じ原田選手の後半20分・21分連続ゴールで追い上げるものの、1点差での敗北。日本としては十分力を出した戦いといえます。また、原田選手の6得点も、彼の持前の良さを発揮した結果といえます。

最終順位 18位

VS ドイツ	24●43
VS エジプト	27△27
VS ブラジル	30●31
VS ノルウェー	26●35
VS ウルグアイ	32○19

ハンドボール部 3年 原田一沙さん

知多 CATV メディアスチャンネル、中日新聞で紹介されました

7月16日(木)、知多地域で放送されているケーブルテレビ「メディアスチャンネル」で、ハンドボール男子U-21の代表に選ばれた本学男子ハンドボール部3年の原田一沙さんが紹介されたほか、7月17日(金)中日新聞名古屋版でも原田さんが紹介されました。

メディアスチャンネルでは、本学男子ハンドボール部で原田さんが練習に励む姿が映され、小学校3年から東海ハンドボールスクール、大同大学大同高等学校、大同大学とハンドボールの名門校で練習に励んできたことや、攻守ともに評価が高い選手であることなどが紹介されました。インタビューで原田選手は、代表に選ばれたことに対し、「小さい頃からの夢だったので嬉しい」と話し、大会への意気込みとして「自分は背が小さいが、大きな選手にも通用するということを見せつけられるように頑張っていきたい。応援よろしくお

願います。」と話しました。

中日新聞では、原田選手について、小柄だが広い範囲の敵味方に目を配って送る頭脳的なパスと素早い動きで相手を翻弄すると紹介。原田選手は、「欧州の一流選手は身長200センチ、体重100キロが当たり前と聞んだけど、体の大きな相手を負かすのが楽しみ」「東京五輪での活躍につなげるため、目いっぱい世界にチャレンジしていきたい」と意気込んでいました。

また、本学の男子ハンドボール部の監督で、U-21の代表監督も務める、佐藤壮一郎准教授(情報学部 総合情報学科 経営情報専攻)についても紹介され、「この世代が2020年の東京五輪でフル代表の中核を担うのは間違いない。久しぶりの大舞台で世界の強さを思い知ったうえで、勝てるチームをつくる」と意気込みを語りました。



メディアスチャンネルで放送された映像はこちらからご覧いただけます
http://www.medias-ch.com/movie_detail.php?page=3891



体育祭

10月17日(土)、18日(日)、学生会執行委員会主催の体育祭が開催されました。当日は天候にも恵まれ、サッカー、卓球、バトミントン、ソフトボール、テニス、バスケットボールの6種目で、合計73チームが白熱した試合を展開しました。

参加者のコメント

私はソフトボールに参加しました。当日は、気持ちのよい秋晴れでした。久しぶりに汗をかき、みんなでゲームの展開に一喜一憂したり、力を合わせて1点をとったりとても充実した1日でした。

体育祭結果

サッカー

- 1位 TEAM ドリトス with 柄野
- 2位 D.U.dreams
- 3位 吉金ニキ

卓球

- 1位 高浜メイク
- 2位 神谷洋司
- 3位 フランスパン

バトミントン

- 1位 ふるたつ
- 2位 過去からの追撃
- 3位 jimmy hat

ソフトボール

- 1位 大同フェミニスト
- 2位 TEAM WAIWAI
- 3位 ミラクル9

テニス

- 1位 ガチムチパンチレスラーズ
- 2位 横浜 DeNA ベイスターズ
- 3位 リカルデント

バスケットボール

- 1位 SHIMASUPA
- 2位 せめとこ半島



レーシングカート部

第20回 全日本学生カート選手権で総合優勝!!



8月23日(日)、第20回 全日本学生カート選手権が開催され、本学のレーシングカート部

が総合優勝しました。記念すべき第20回大会は本学が幹事校となり、岐阜県フェスティカサーキット瑞浪を開催地として、選手としても運営陣としても活躍しました。本学レーシングカート部の総合優勝は昨年に続き4回目です。

全日本学生カート選手権は、学生カーターたちの年に一度のビッグイベント。今年も全国各地から学生が集まり、本学は7年連続19回目の出場となりました。

この選手権はレンタルスプリント、レンタル耐

久、SS、FD、TIA、の5つのクラスがあり、各クラスの上位入賞者にポイントが振り分けられる仕組み。本学はレンタルスプリントクラス、SSクラス、FDクラス、TIAクラスの4クラスに参加しました。各選手粘り強い走りを見せ予選から多くのポイントを獲得することができ、見事、総合優勝を手に入れました。

また、この活躍は複数の新聞で取り上げられました。

(当日のレース動画はこちら) You Tube チャンネル(予選・決勝・表彰式)

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLpEP8VBInqkx11kiL9iQ2KT53te7A3tZ>

ロボット研究部

かわさきロボット競技大会で準優勝! OBが優勝! その他多数受賞!

8月21日(金)～8月23日(日)、第22回かわさきロボット競技大会が開催され、ロボット研究部で工学部 総合機械工学科 4年の横山真平さんが準優勝しました。また、同じく4年 森健二さんが日本サーキット賞、3年 濱島健人さんがオリジナルマインド賞、4年 河合優さんがユニーク賞、4年 林秀行さんが特別戦を受賞しました。そして、優勝は本学ロボット研究部 OB と、大同大学ロボット研究部が大活躍しました。

競技大会は21日に予選トーナメント、22・

23日に決勝トーナメントが行われ、208にも及ぶ参加数の内、予選トーナメントから決勝トー



ナメントに進めるのはわずか上位48。終始、白熱した戦いとなりました。



かわさきロボット競技大会の HP はこちら http://www.kawasaki-net.ne.jp/robo/about_kawarobo/summary.html

ロボット研究部

ロボファイト16で3年石黒さん SRC 部門、2年川口さんランブル部門の ORC で優勝! 3年内藤さん ORC 部門で準優勝!



8月2日(日)、関西最大級の二足歩行ロボット格闘競技会「ロボファイト16」がOCT(大阪工業技術専門学校)で開催され、本学ロボット研究部の内藤貴志さん(工学部 総合機械工学

科 ロボティクス専攻 3年) がORC部門で準優勝、石黒稜人さん(同専攻 3年) がSRC部門で優勝、川口雅貴さん(同専攻 2年) がランブル部門のORCで優勝しました!

SRCとは、スタンダードレギュレーションクラスの略で、①市販二足歩行ロボット、②またはその改造機、派生型で、スタンダードレギュレーションを満たした機体、③自作機でスタンダードレギュレーションを満たし

た機体のいずれかを用いることができます。スタンダードレギュレーションとは、今回の競技会では1.8kg級の規定で、身長40cm以下、手等を伸ばしたときの最大幅60cm以下などのさまざまな制限があります。ORCとは、オーバーレギュレーションクラスの略で、スタンダードレギュレーションを超える仕様をもった2足歩行ロボットで、至近のROBO-ONE本戦仕様に準じたロボットで行われ、発射体ルールも採用されます。

試合では、全部で約90体のロボットがトーナメント方式で戦い、各部門でダウンを奪い合う白熱した試合が繰り広げられました。



情報学部 総合情報学科 経営情報専攻／命をつなぐ PROJECT 学生実行委員会 「環境デーなごや 2015」に出展しました

9月19日(土)、久屋大通公園で開催される「環境デーなごや 2015 中央行事 〜つなげる人の輪 つなげる取り組み〜」に経営情報専攻と本学学生が多く参加している命をつなぐ PROJECT 学生実行委員会がブース出展しました。

環境デーなごやは、市民・事業者・行政の協働のもと、よりよい環境づくりに向けて具体的な行動を実践する契機とする行事として、2000年からスタート。それぞれの地域で行う地域行事と成果を持ち寄り発表、交流、学びあう中央行事を毎年開催しています。

16回目となる今年度は昨年11月に名古屋で開催された「ESD ユネスコ世界会議」の理念をふまえ、一人ひとりが今日の様々な環境問題を自らの課題として捉え、その解決に向け、主体的に行動していくよう、世代を超えて行動の輪をひろげていくための取り組みを展開しました。

城田光穂さん(情報学部 総合情報学科 かおりデザイン専攻 4年)

におい・かおり環境学会ベストプレゼンテーション賞を受賞!



8月25日(火)、26日(水)、本学で公益社団法人におい・かおり環境協会主催、第28回におい・かおり環境学会が開催され、情報学部 総合情報学科 かおりデザイン専攻 4年 城田光穂さんが、ベストプレゼンテーション賞を受賞しました。

におい・かおり環境学会は、においに関する国内外の研究者、企業の方が一同に会し、様々



なにおいに関する研究や事例等を発表する場として毎年6～8月頃に開催されています。

今回、関東圏以外での開催は、立命館大学での開催に続き2回目。例年を上回る約240名の方々にご参加いただきました。

学会では、一般口頭発表とポスター発表、機器企画展示が行われ、一般口頭発表では本学情報学部 総合情報学科 かおりデザイン専攻

の光田恵教授、岩橋尊嗣教授、棚村壽三講師も発表を行いました。また、かおりデザイン専攻の学部生・大学院生らも自身の研究について発表を行い、かおりデザイン専攻4年 城田光穂さんが、ベストプレゼンテーション賞を受賞。どの学部生・大学院生も、会場となったゴピーホールいっぱいの参加者の皆さまを前にしても動じず、堂々と発表を行う姿が印象的でした。

また学会中には、澤岡昭学長が「宇宙開発とにおい」と題して特別講演を行いました。国際宇宙ステーションで問題となっているにおいについて話がなされ、参加者の方々も熱心に耳を傾けていました。

今回の学会では参加者の方々の誘導や運営などもかおりデザイン専攻の学生たちが行い、社会人の方々と接する良い機会となったようです。

命をつなぐプロジェクト学生実行委員会

東海テレビ「SKE48のあいちテル!」に出演しました

10月3日(土)、東海テレビ 毎週土曜 17:26～17:30 放送の「SKE48のあいちテル!」に、本学学生が多く活躍している、命をつなぐ PROJECT 学生実行委員会の取り組み「命をつなぐ PROJECT」が紹介され、本学学生が出演しました。

命をつなぐ PROJECT は、愛知県知多半島臨海部(東海市・知多市)に立地する企業群が持つ緑地を、地域の公共的な財産として捉え、哺乳類や鳥類等の生き物の棲み家となる緑地へと転換させることで、地域の生態系ネットワークを形成しようという取り組み。

今回、番組の中では、森に住む動物たちの巣穴づくりが紹介され、本学学生は「とっても楽し

いです。」「この活動で1つのものをみんなで作り上げることができてとても嬉しいです。」「自然と触れ合うことができて、やりがいを感じます。」などとコメントしました。番組には、工学部で総合機械工学科3年の松田 祐輝さん、建築学

科 土木・環境専攻 4年の新里真弥さんと3年の村松和樹さん、情報学部で総合情報学科経営情報専攻の鈴木聡真さん、また中部大学の福原かなえさんが出演しました。

出演者のコメント

今回は学生5人が出演させていただき、出演時間は少しでしたが、貴重な体験をさせていただきました。そして、日頃見てるテレビ番組を作る難しさを実感しました。これも、日頃から命をつなぐ PROJECT の活動を支えてくださっている大同大学をはじめ関係者の皆様のおかげだと思っています。いつもありがとうございます!!また、出演させていただける機会がいただければ、今回のことをしっかり活かしていきたいです。年内には、命をつなぐ PROJECT の集大成となる環境啓発イベント、グリーンスマイルフェスタを行う予定ですので、是非遊びにきてください!!

牧田直大さん(工学部 総合機械工学科 3年)

「第9回社会調査インターカレッジ発表会」で 発表しました

10月24日(土)中京大学豊田キャンパスにて、東海地域の大学生が社会調査に関する発表会を行う「第9回社会調査インターカレッジ発表会」が行われ、工学部 総合機械工学科3年の牧田直大さんが「道の駅における地域振興の現状と課題—東海道沿線の調査より」とい

うテーマで、発表しました。

発表会では例年、パワーポイント報告とポスター報告の2つの形式の報告が行なわれており、当日の会場には300人を超える参加者が来場しました。大同大学としての参加は昨年に引き続き、2回目となります。



中山智貴さん(工学部 建築学科 土木・環境専攻 3年)

「あいちサスティナ研究所」研究員として活動中です!

「かがやけ☆あいちサスティナ研究所」とは、近い将来地域の担い手となる学生がグローバルな視点を持って、持続的に環境配慮行動を実施することができるよう立ち上げられました。このプロジェクトでは、研究員である学生が、クライアントである5つの企業から事業活動における環境面での取り組みや課題について聞き、現場での調査や企業側とのディスカッションを通して、解決のためのプランを提案し、成果をPRすることとなっています。

応募した県内の学生の中から20名が研究員

として選出。中山智貴さんも研究員として採用され、8月21日(金)には県庁において大村知事との面談などが行われました。大村知事からは、「若々しい発想で思いをぶつけてほしい」と激励を受けました。

8月22日(土)中日新聞朝刊でもこの取り組みが取り上げられ、記事では中山さんの「私たちが持続可能な愛知の担い手となるよう頑張りたいです」とのコメントが紹介されました。

中山さんは、これまで「命をつなぐプロジェク

ト」などの環境活動に取り組んできた経験を活かして、今回はソニーイーエムシーエス株式会社のチームリーダーとして、企業担当者から現場の説明を受けたりディスカッションを行うなどの活動を行いました。また、11月14日(土)、15日(日)には、アスナル金山にて修了式や研究成果発表が行われました。

なお、本研究所の活動には、土木・環境専攻の非常勤講師を務める長谷川明子先生がアドバイザーとして協力しています。

中進学ナビニュースでも紹介されています

http://edu.chunichi.co.jp/?action_kanren_detail=true&action=education&no=6262

「かがやけ☆あいちサスティナ研究所」facebook ページ

<https://www.facebook.com/kagayaken>

新刊紹介

酒井陽一教授(教養部 化学教室)
『放射化学の事典』
出版に携わりました



9月に朝倉書店から出版された、『放射化学の事典』の編集・執筆に酒井教授が携わりました。

この本では、医療やエネルギーだけでなく、生命科学、環境科学、地球・宇宙科学などの基礎科学とし重要な放射化学について、約180の項目を1~4頁で平易に解説。人々の関心の高い項目も取り上げ、現代人の一般常識となるように解説されています。

酒井教授は「IV章 原子核プローブ・ホットアトム化学」の章の編集担当をつとめました。

新任教員紹介

井原 禎貴 准教授
工学部 総合機械工学科



2015年10月1日に総合機械工学科へ着任しました井原です。学生時代を京都で

過ごした後、こちらへ来るまでは岐阜大学で勤務しておりました。専門は熱工学、燃焼工学でとくにレシプロ内燃機関内の燃焼を対象としています。ほぼ現在の形になって約150年となるレシプロエンジンは、「エネルギー変換を行い他の機械に動力を供給する」特別な機械であり、機械工学の集大成とも言えます。その魅力を授業・研究を通して学生の皆さんに伝えられたらと思っています。よろしくお願いします。

岡本 洋輔 講師
工学部 建築学科 建築専攻 / インテリアデザイン専攻



2015年10月に建築学科に着任した岡本です。専門は建築環境工学で、私た

ちの日々の生活を取り囲む環境をより快適に設計することを目的とした研究をしています。特に人の「こころ」や「からだ」の状態を実際に計ることで、環境と人との関係を明らかにすることに取り組んでいます。皆さんには、生活環境をより素敵に快適にするために必要な知識を身につけて欲しいですし、皆さんのアイデアについて一緒に考えたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

村上 理 講師
情報学部 総合情報学科



2015年10月1日付で情報学部総合情報学科に着任いたしました村上と申し

ます。専門は会計学であり、とりわけ会計基準の設定プロセスについての研究を行っております。人間のいるところには経済活動があり、経済活動があるところには会計があります。このような、我々にとって身近な存在である会計の魅力を、より多くの学生に知ってもらいたいと考えております。よろしくお願いします。

澤岡昭学長

なごやマスターズデイイベント『シニアいきいきコンサート』で講演

9月14日(月)宗次ホールにて、「第6回 なごや マスターズデイ プレイイベント『シニアいきいきコンサート』」いつまでも音楽のある暮らしを」が開催され、「80歳で宇宙飛行士になる！」

と題して、澤岡学長が講演を行いました。

なごやマスターズデイは、高齢者を人生の達人(=マスターズ)と位置づけ、高齢者の社会参画をうながす産学官連携イベントです。このイベン

トでは講演の他に、実力派ソリスト集団「魁-sakigake-」によるコンサートや、壺番屋創業者 宗次徳二氏による講演がなされました。

執筆した記事が中日新聞に掲載されました

6月12日(金)中日新聞夕刊に、澤岡昭学長が執筆した記事が掲載されました。

記事では、いずれ日本が、米国が主唱する火星有人飛行計画に何らかの協力をしなければならぬ時が来ることから、わが国に期待されるものが、単なる資金負担とならないよう早めに意思表示する必要がある。独自の技術開発を担当し、それが日本の産業と国民生活に貢献するものでなければならないと指摘しています。そして、国際的な宇宙計画における日本の

かわり方として、「排せつ技術」を担当してはどうか、それが今後、高齢者の排せつ問題にも役立つはずだと述べています。

また、この内容については4月に栄中日文化センターで行われた、宇宙飛行を二回経験した向井千秋さんとの講演会でも繰り広げられており、その時向井さんとお話された「宇宙医学は究極の予防医学」と題した講演の内容も記事中で紹介されました。



NHK「ニュースウォッチ9」に出演し、ソユーズについてコメントしました



7月20日(月・祝)、NHK「ニュースウォッチ

9」(月～金、21時より放送)で、澤岡昭学長がソユーズについてコメントしました。

番組では、23日に日本人宇宙飛行士の油井亀美也さんがソユーズで宇宙へ飛び立つことから、宇宙船ソユーズについて特集がなされました。ソユーズは人類初の有人飛行に成功した、旧ソビエトで開発され今も現役の宇宙船。3年前にソユーズで打ち上げられ、国際

宇宙ステーションに滞在した星出彰彦宇宙飛行士は、船内について説明し、40年以上死亡事故がなく、非常に信頼性が高い宇宙船であると話しました。

また、澤岡昭学長はソユーズの技術改良についてや、ソユーズはロシアにとっても大きな存在価値があり、アメリカやヨーロッパとのパイプとなっていると指摘しました。

徳納一成教授(工学部 機械工学科)

『最先端鉄鋼体験セミナー』で講師を務めました

9月2日(水)、大同特殊鋼株式会社さつき館及び、知多工場で行われた、『最先端鉄鋼体験セミナー』で、徳納教授が講演を行いました。

今回のセミナーは、大学と企業の第一線の研究者が鉄鋼の最先端技術や将来の展開を紹介し、さらに、実際の製鉄所を見学するという

もので、大学1～3年生を対象に開催されました。

プログラムは午前と午後の2部に分かれ、午前中に大学と企業の第一線の研究者が、鉄鋼の最先端技術や面白さ、重要性、将来の展開などを紹介。本学の徳納教授と大同特殊鋼(株)技

術開発研究所 プロセス研究部 部長 木村利光さんが講師を務めました。そして、午後にはバスで最先端の工場を訪問し、セミナーで聞いた話を踏まえた見学や質疑応答が行われ、参加者にとっては「目からウロコ」の発見がある体験セミナーとなりました。

宮本潤示講師(工学部 機械工学科)

月刊 生産財マーケティング9月号に研究が紹介されました

ニュースダイジェスト社が発行している雑誌、「月刊 生産財マーケティング9月号」に、宮本講師が2年前から研究している「大気圧プラズマを用いた窒化処理」が紹介されました。

紹介されたのは「今に花咲き実を結ぶ」というコーナー。先端の研究を行っている研究者を特集するもの宮本講師のプロフィールをは

じめ、金型や工具の表面に窒化層を形成し、表面硬度や耐摩耗性を向上させる窒素処理について、宮本講師がそのなかでも、大気圧プラズマを使った窒化処理を研究していることを紹介。従来の真空中でのプラズマ窒化処理に比べ、コストが低く、扱える材質も多いが、実用化には処理するワークの大型化や酸

化対策などの課題もあるとしています。

また、雑誌内で宮本講師は研究について、「始めたばかりで課題も多いが、今後も研究を続け、将来は工具などでの実用化を目指したい」と意欲を語りました。

西堀賢司名誉教授(工学部 総合機械工学科)

名産研eラーニングで講師を務めています

公益財団法人名古屋産業科学研究所が行っている、企業技術者や理工系の高専・大学・大学院生を対象としたインターネットで受講できる講座「メカトロニクスのための電子回路」で、西堀賢司名誉教授が講師を務めています。

この講座は、基礎編と応用編に分かれており、基礎編では電子部品の特徴や使用法、デジタル IC を利用するための基礎知識などを紹介し、電子部品、マイコンの組み合わせでさまざまな回路を作る実践力と応用力を育てます。また応

用編では、基礎編で学んだ知識をもとに、フリップフロップ、カウンタ、数字表示回路、エンコーダなどの回路を紹介し、電子部品とマイコンの組み合わせで機械を知能化する実践力と応用力を育てます。

詳細はこちら：<http://www.nisri.jp/chc/eLearning/>(名古屋産業科学研究所 HP)

橋口宏衛講師(工学部 総合機械工学科)

中日こどもウィークリーでドローンについてコメントしました

6月13日(土)中日こどもウィークリーで、橋口宏衛講師がドローンについてコメントしました。

記事では、5月に行われた国際ドローン展を受けて、ドローンの仕事用での新しい使い方や、おもちゃ用もあることなどが紹介されました。しかし、人の多い街中や観光地で墜落する

事故が目立ち始め、ドローンが危険というイメージが強まっていることから、橋口講師は「ルールを決めて、みんなが正しく使えば、もっと便利な道具になるはず」と話しました。

この内容は学内で取材、撮影が行われ、記事には学生にドローンの自動運転の仕組みを教える橋口講師の姿も掲載されています。



第2回無人飛行ロボット活用WGが本学で行われ、座長を務めました



無人飛行ロボットの開発・実証実験の実施及び新たなビジネスモデルの可能性を検討することを目的とする「無人飛行ロボット活用 WG」。4月24日(金)には第1回の会合が行われ、本学の橋口宏衛講師が講演を行いました。

そして、7月21日(火)に本学にて第2回の会合が行われ、本学の橋口宏衛講師が座長を務めました。会合では、無人飛行ロボットや次世代ロボッ

トについての講演やドローン活用事例についての情報提供がなされたほか、「無人飛行ロボットの円滑な産業利用に向けた課題・方策」をテーマに積極的に意見交換が行われました。また、本学のロボット工房も見学していただきました。

会合では、各国での無人飛行ロボットの規制を比較し、日本の航空法の改正が日本の産業用ドローンの発展に繋がること、実現可能な実施体制の整備を早急に行うこと、安全度基準を定めることの必要性、ドローンによる太陽光パネルの点検や産業廃棄物の保管状況の確認への活用などの話がなされました。

山田靖教授(工学部 電気電子工学科)

日本試験機工業会発行 技術情報誌に研究内容が紹介されました

日本試験機工業会は、昭和14年に材料試験機の製造を目的に創立された伝統ある工業会で、その後工業的試験装置メーカーの集団として、展開しています。この日本試験機工業会が発行している材料試験・環境試験の技術情報誌「TEST」vol.37(年4回発行、2015年9月発行号)で、山田教授の研究が紹介されました。37号の特集は、「パワーデバイスと評価試

験等について」。

山田教授は特集内で、「パワーモジュールなどの評価試験方法について」と題して、パワーモジュールの特性評価が、電気、熱、応力など広い技術範囲に及ぶこと、また、電気特性と熱特性は相互に影響し、熱特性は応力などの機械的特性に影響を及ぼすため、それぞれ単一の特性を評価する際には、他の特性の影響を十

分把握する必要があることなどを解説。さらにそれを踏まえたうえで、電氣的評価、熱的評価、信頼性評価の観点で、研究開発時の基礎的なテストピースのような小型試料の評価試験方法に関して述べています。

さらに、それらの試験方法の検討や結果の考察に重要な、シミュレーションや解析技術を行う上で配慮する点なども述べられています。

武藤隆教授(工学部 建築学科 建築専攻／インテリアデザイン専攻) 執筆した記事が毎日新聞に掲載されました



10月17日(土)毎日新聞に、武藤隆教授が執筆した記事が掲載されました。

記事では、「地域再生のまちづくり」と「地域でのアート」の関係についてコメント。

武藤教授は「地域再生のまちづくり」を「傷病者と医療」の関係に例え、それぞれの地域に見合った方法でまちづくりを進めていかなければならないことを指摘しました。

特に、「地域でのアート」がまちづくりの万能薬のように誤解されているケースについて触れ、「地域でのアート」の本来のスタンスや今後の可能性について述べています。

加藤和雄教授(工学部 建築学科 建築専攻／インテリアデザイン専攻) MESH環境デザインセミナーにコメンテーターとして参加し、 本学学生のプレゼンテーションも行われました



10月20日(火)、名古屋工業大学で行われた第93回 MESH 環境デザインセミナーに、加



藤和雄教授がコメンテーターとして参加しました。また、横井大輔さん(工学部 建築学科 イン

テリアデザイン専攻4年)がプレゼンテーションを行いました。

MESH 環境デザインセミナーは、インテリア・建築・環境・プロダクトなどを学ぶ空間デザイン系の学生と若いデザイナーを対象として、年に数回開催。毎回日本を代表する空間デザイナーにご講演いただいています。

※横井大輔さんは、『卒業設計・基本構想・AQUA SCAPE「BEAUTY SALON」』を発表しました。

MESH ホームページ：<http://m-e-s-h.org/>

鷲見哲也准教授(工学部 建築学科 土木・環境専攻) NHK「ほっとイブニング」、朝日新聞で鬼怒川の決壊など についてコメントしました



鷲見哲也准教授が、9月14日(月)NHK「ほっとイブニング」(18:10-19:00)で鬼怒川の決壊についてコメントしたほか、9月9日(水)・9月13日(日)付の朝日新聞でも、鬼怒川の決壊にともなった、東海地方での避難等について

コメントしました。

鷲見准教授は番組内で、先日の鬼怒川の決壊による災害について解説を行い、木曾川など中部地方でも鬼怒川の決壊した場所と、同様の形をした場所を持つ川がいくつもあると述べ、目の前の川の様子ではなく、その川の上流でどれくらい雨が降っているかを知る必要があるとコメントしました。

朝日新聞では、9月9日(水)の東海豪雨から15年たち、都市開発の弱点があらわになった中、決壊等への対策が十分か問う記事の中で、「同じ雨量でも短時間に集中すれば地下の貯留

管や下水道はあふれてしまう」と指摘し、「本来は市街地にすべきではない土地も多い。街づくりと一体で豪雨対策を考えるべき」とコメント。

また、9月13日(日)の東海地方の適切な避難についての記事では、「行政に頼るだけでなく、個々の世帯で普段から自宅や近隣の高くて安全な場所を知っておき、避難指示や勧告が出た時の行動を決めておくのが理想」とし、「普段から過去の災害を知っている人と地域を一緒に歩き、浸水しそうな場所、避難時に危なそうな場所などを把握、共有しておくことが望ましい」と述べました。

堀内将人教授(工学部 建築学科 土木・環境専攻)

第27回 環境システム計測制御学会(EICA)研究発表会が 本学で開催され、実行委員長を務めました



10月28日(水)、第27回 環境システム計測制御学会(EICA)研究発表会が本学で開催されました。

はじめに研究発表会の実行委員長でもある



堀内将人教授より挨拶があり、和やかな雰囲気で行われた研究発表会がスタートしました。

最初のプログラムでは澤岡学長による特別講演「2030年火星への旅～長期閉鎖空間で

のハイセツ問題」がなされました。特に宇宙空間では「水」が貴重な存在となるため、排泄物をいかに処理し、水として再利用していくかが今回の講演の主題となりました。参加者からは「自分の研究している技術が、宇宙の排泄物処理技術にも活かさないだろうか」というコメントもあり、土木・環境分野としての今後の可能性も感じられました。講演の他に、ポスター発表や口頭発表が行われ、それぞれ、質疑応答や説明がなされました。

嶋田喜昭教授(工学部 建築学科 土木・環境専攻)

本学で日本福祉のまちづくり学会 研究・活動発表会が 開催され進行を務めました

7月25日(土)、本学で2015年度(第3回)日本福祉のまちづくり学会東海北陸支部 研究・活動発表会が開催され、副支部長を務める嶋田喜昭教授が進行を務めました。

日本福祉のまちづくり学会は、法律や社会福祉、工学などあらゆる分野の専門家が集結し、

さまざまな「福祉のまちづくり」について、研究・開発していくことを目的としています。

発表会では、中山間地域における高齢者モビリティの実態や、車いす利用者による乗合バス利用時の心理的バリアの実態などが報告され、活発な意見交換が行われました。



田中秀和教授(情報学部 情報システム学科 コンピュータサイエンス専攻)

『名古屋工業大学ごきそ技術士会』の会長に選任されました

7月11日(土)に行われた『名古屋工業大学ごきそ技術士会 総会』で、会の設置以来、事務局長であった田中教授が『名古屋工業大学ごきそ技術士会』の会長に選任されました。

『名古屋工業大学ごきそ技術士会』は、会員の技術の継続的な研鑽を図り、地域社会に貢献し、社会の発展に寄与することなどを目的としており、技術士の資格を有する名古屋工業大学卒業生を結集し、設立されました。

会長に指名された流れを受けて、田中教授

は本年度、名古屋工業大学の技術者教育プログラムとの教育連携を積極的に進めています。具体的には都市社会工学科の演習科目、環境都市工学演習のうち、PBL演習8コマ分に、産業界で活躍されている経験豊富なファシリテータを数多く派遣し、学生の演習を支援します。

PBLとは、ここでは Project Based Learningを意味しており、実務的なプロジェクトに対して学生が主体的に取り組みます。プロジェクト

計画から設計に至るまでの、答えが一通りとは限らない問題解決に、グループ(チーム)で挑む、いわゆるアクティブラーニングの代表的な演習です。これまでは、名古屋工業大学内の教員だけで実施してきたそうですが、ごきそ技術士会等の外部の技術者の力を借りることで、より開かれた、より現実的な、より役に立つ演習として、10月からスタートしています。

上岡和弘教授(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

名古屋商工会議所で講演を行いました

10月29日(木)、名古屋商工会議所 若鯨会主催 10月例会が開催され、「自社プロモーションの整理整頓術」と題して、上岡和弘教授が講演を行いました。

若鯨会とは、若手経営者・後継者育成のための異業種交流団体。会員の相互啓発と、企業

の持続的発展、地域経済の活性化への寄与を目的として、14のグループ活動を基盤に、グループ間交流、全体交流事業なども行っています。

講演では、テーマに基づき、埋もれている経営資源の活用からそのプロモーションの手法までさまざまな切り口から紹介しました。



小島一宏准教授(情報部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻) 愛知県知事より「感謝状」を授与されました



10月15日(木)、
愛知県の大村秀章
知事より「感謝状」を
授与されました。

小島 准教授は、
愛知県警が毎年開
催している「女性安
全フォーラム」で昨
年度と今年度の2
年続けて「女性のための伝わるトーク術講座」

を担当。

「女性安全フォーラム」は、女性の防犯意識の
高揚を図ることを目的に、愛知県警が平成20
年度から続けているもので、東区のウィルあい
ち・ウィルホールに毎年700人ほどを集めて盛
大に行われています。

その「女性安全フォーラム」で小島准教授は、
本学のメディアデザイン専攻の学生たちにも教
えている「思いを伝えるためのコツ18か条」を
紹介したり、デートDV やリベンジポルノ、ストー

カーなどの被害に遭わないためにも「嫌なことを
はっきりと伝え きちんと断る」大切さ、さらには
性犯罪の被害者になってしまった女性に「被害
に遭ったのは貴女のせいではない」と繰り返し
伝える重要性などを、会場の聴衆に伝えました。

「女性安全フォーラム」での継続的な取り組み
など、安全なまちづくりへの貢献が認められて今
回、知事から「感謝状」をお送りいただきました。

小島一宏准教授(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻) 毎日新聞で、B棟1階展示「夏休みに映画を見よう!」が紹介されました



7月22日(水)毎日新聞で、B棟1階学生食
堂で開催中の展示「夏休みに映画を見よう!」
が紹介されました。この展示は、小島一宏准教
授が毎日新聞で連載している映画コラム「芸術
食堂」をもとに行われたものです。

小島准教授は「最近の学生は映画を見なく
なった。作品を通じてさまざまなことを感じてほ

しい。」と話し、展示では公開中のアニメ「バケ
モノの子」や恋愛映画「横道世之介」など全15
作品が紹介されました。

光田恵教授(情報学部 総合情報学科 かおりデザイン専攻) 平成27年度第3回『大村知事と語る会』に出席しました

キャリアセンター長の光田恵教授が、愛知県
主催の平成27年度第3回『大村知事と語る会』
に出席しました。この会は、愛知県民と知事とが
直接、県政について語り合うことを目的としてお
り、第3回目は「女性の雇用促進ー働く女性が
輝くあいちー」をテーマとし、平成27年11月16
日(月)に愛知県三の丸庁舎2Fあいち国際プラ
ザ「アイリスルーム」にて、開催されました。

愛知県ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/0000045369.html>

当日は、大村知事と女性の雇用に関する様々
な分野で活躍する8名が【働く女性が生き生き
と輝くあいちの実現のために必要な視点や方
策】について、約2時間に渡り語り合いました。

なお、この会の様子は、インターネットのユー
ーストリームでライブ中継がなされ、今後、愛知県
のHPにて動画配信される予定です。



棚村壽三講師(情報学部 総合情報学科 かおりデザイン専攻) (公社)におい・かおり環境協会 学術賞を受賞しました

棚村壽三講師が、公益社団法人におい・か
おり環境協会 学術賞を受賞しました。学術賞
は、においに関する論文、著作等学術的研究成
果が特に優れた30歳以上の個人に贈呈され
るもので、本学では光田恵教授に続き2例目の
受賞となりました。

棚村講師は、住宅のLDKの空気質に影響を

与える調理臭を測定、評価し、制御方法を検討
するための基礎データを収集し、建築環境工学
空気環境分野に対し、多大な貢献をしたことが
今回の受賞理由となりました。



前田安郭教授(工学部 機械工学科)

月刊誌素形材で、鑄造プロセス工学研究室として紹介されました

一般財団法人 素形材センターが発行している月刊誌素形材の6月号で、前田安郭教授の研究室が紹介されました。

「未来を担う人づくり」特集の一環として取り上げられ、記事内では初めに本学の理念や歴

史、教育システムなどが紹介されたほか、機械工学科で取り組んでいる特徴的な授業カリキュラムが紹介されました。

その後、前田研究室が紹介され、学部生中心の研究室のため、「やれば出来る」「明るく、楽し

く、元気よく」「心技体+知」「百聞は一見にしかず」などをモットーとしていることや研究テーマ、鑄造 CAE、コンピュータシミュレーションを中心に関連する実験を実施していることなどが紹介されました。

大嶋和彦研究室卒業生 滝鼻康太さん・富永智治さん
(工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻2014年度卒業)

製作したスピーカーがオーディオ雑誌で紹介されました

オーディオの総合月刊誌『ステレオ』の2015年8月号内の特集「オーディオクラフト 2015～自作で奏でる歓喜の音～」で、滝鼻康太さんと富永智治さんが3次元プリンタを利用して製作したバックロードホーンスピーカーが紹介されました。

雑誌では、3次元プリンタを導入することにより実現が可能になった理想的なホーン形状

をもつバックロードホーンスピーカーの設計や製作方法が具体的に紹介されたほか、測定や試聴の結果も紹介されました。クラシックがとて心よく聴ける仕上がりと



工学部 建築学科 建築専攻／インテリアデザイン専攻 X4デザイン専攻リレー展 「学生作品展一つなく、つながる、そして建築へー」を開催しました

10月20日(火)から10月25日(日)まで、市民ギャラリー矢田にて、X4デザイン専攻リレー展「学生作品展一つなく、つながる、そして建築へー」を開催しました。

この展示では、工学部 建築学科 建築専攻・インテリアデザイン専攻の学生が、授業の課題

で制作した設計作品のうち特に優れたものや、有志によって制作された設計作品を紹介。

各々の作品には、建築やインテリアのデザインを通した彼らの社会に対するメッセージが込められ、真摯に学業に取り組む学生たちの夢を身近に感じていただけるものとなりました。



不破勝彦研究室(情報学部 情報システム学科 コンピュータサイエンス専攻)

第158回教育工学研究会で発表しました

9月11日(金)、計測自動制御学会(SICE)中部支部主催、「第158回教育工学研究会」が本学で開催され、不破勝彦教授と不破研究室の神野優綺さん(コンピュータサイエンス専攻4年)が連名で発表しました。

今回の研究会のテーマは、「計測制御と教育工学との融合」。その中で神野さんは「離散時間リアプノフ方程式の一解法」と題して発表を行いました。

なお、この教育工学研究委員会委員長を川

福基裕准教授(工学部 電気電子工学科)が務め、川福准教授も「無線駆動車両の開発と振動制御」と題して発表を行いました。

横井健二研究室(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻)

中日新聞東濃版で、障害者施設の商品共同開発の取り組みが紹介されました

7月4日(土)の中日新聞東濃版に、横井健二研究室的学生らによる卒業研究の取り組みが掲載されました。

横井研究室では、昨年から恵那市明智町の市障害福祉サービス事業所「明智ひとつばたご」と協力を、利用者の版画などを取り入れた絵はがきの製作・販売に取り組んでいます。

今年は第2弾として横井研究室の赤見実咲さん、遠山暦さんが参加し、「ドリッピング」や、「クレヨンスクラッチ」という技法で作品を利用者に試作してもらいました。

今後は、施設のパンフレットやホームページの作成も進めていく予定です。



小島一宏研究室(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

“映画監督に迫るインタビュー取材”を行いました



8月17日(月)、東宝スタジオ(世田谷区成城) 山崎組スタッフルームにて小島准教授と

ゼミ生たちが「映画監督に迫るインタビュー取材」を行いました。

小島准教授は、日本映画界を支えている映画監督の思想や信条・ルーツに迫るインタビュー取材を研究の一環として行っています。

東海ラジオの番組などを通じて親交の深い、いま最も注目されるヒットメーカー・山崎貴監督に取材をお願いし、ゼミ活動の一環としてゼミ生たちも監督に直接お話を聞くインタビューに挑戦。

小島研究室が迫及している“コミュニケー

ション力”、“会話力”を磨くための、貴重な機会にもなりました。

インタビューではまず、導入として小島准教授から監督の人柄や信条、映画作りへの情熱などに迫る質問について取材しました。

続けてゼミ生たちから監督に、「映画監督」としての強みや普段意識していること、さらに、監督のこれまでの作品にまつわる質問等についてインタビューしました。

今後、インタビュー内容の文字起こしや映像編集などを行い、研究成果としてまとめていく予定です。

情報学部 総合情報学科 経営情報専攻

アメリカ短期留学報告会が開催されました



10月22日(木)本学で、情報学部 総合情報学科 経営情報専攻による『アメリカ短期留学報告会』が開催されました。8月13日(木)から9月8日(火)まで、科目「海外事情1」の一環とし

て、経営情報専攻の学生12名がアメリカ合衆国オレゴン州のオレゴン州立大学に短期留学しました。今回の報告会では、そのアメリカ短期留学の概要説明や学生の体験報告がなされました。

学生の体験報告では、学生12名が1人ずつ、それぞれ別のテーマで発表。「衣、住について」や「食について」、「アメリカの授業風景」、「ボランティア活動」、土日に行う「アクティビティ」などさまざまなテーマについて、写真を載せたスライドを用いながら、印

象に残ったことやおすすめなどを実体験をもとに具体的に話がなされました。また、同時期に留学をしていた崇城大学の学生との交流や、お世話になった先生へ送った手作りムービーなども紹介されました。

質疑応答では、経営情報専攻の1年生から、費用や自炊についてなど身近なことについての質問もなされ、それに対して2年生は親身になって自分の体験からアドバイスをし、「自分たちの発表で、少しでも留学について分かってもらえて、役に立ていただけたら幸いです。」と話しました。

短期留学中の学生のブログは本学ホームページよりご覧いただけます。

大同大学 短期留学ブログ
<http://www.daido-news.jp/blog/>

第4回異分野交流会が行われました



9月30日(水) 本学A棟1階学生ホールにて、第4回異分野交流会が行われました。

この交流会は、教員がそれぞれの専門分野と自身の研究・創作活動について、異なる分野の人たちと相互に解説・発表し合うことで、学科や分野を超えたつながりをつくることなどを目的として開催されています。



4回目となる今回は、齋田浩見准教授(教養部 物理学教室)と神保睦子教授(工学部 電気電子工学科)による講演が行われました。

齋田准教授は、『電子の存在確率とスピン』と題して、たくさんの動画やグラフなどの資料を用いて、電子や原子核などの粒子が存在する場所が「存在確率」しか原理的には決まらな

いことや、その「存在確率」によって初めて理解できる「電子のスピン」という性質について、法則の基本的な解説や実験の内容を含めた、神保教授の講演の理解につながるための解説もなされました。

また、神保教授の講演では、近年、注目を集めている「スピンエレクトロニクス」に関しての解説がなされ、身近な例としてハードディスクが大容量化かつ小型化されていることや、さらに大容量で小型になるような研究が現在も進んでいることが紹介されました。

講演中には、講演内容についての様々な質問や、それに対して丁寧な解説が行われ、異なる分野を専門としている人にも理解しやすく、みなさん興味深く講演に耳を傾けていました。



図書館特集

図書案内POP展2015 「きっと見つかるあなたの1冊!」を開催しました

本学図書館で所蔵している図書の紹介カード「POP」を集めた第6回展示会を下記のとおり開催しました。展示する「POP」は、2014年度に購入した図書が中心で、学生が制作した傑作も多く含まれています。展示場所は、図書館、B棟

の2カ所。

この展示会が、皆さんと本との新たな、そして素敵な出会いの一助となることを願っての開催となりました。



2015年 第1回 選書ツアーを実施しました

7月2日(木)、三省堂書店(名古屋高島屋店)にて2015年第1回の選書ツアーを実施しました。

今回は、10名の学生と、学生室のスタッフが参加し、授業や研究に必要な図書、読みたい図書、友達に薦めたい図書など、大学図書館にふさわしい図書およそ150冊を選書しました。

選書された図書は7月24日(金)に図書館1階参考図書閲覧室の選書ツアーコーナーに配架されました。

この機会にぜひ図書館に足を運んでみてください。





情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻 枡×アートプロジェクト 『枡×アート展』を開催しました

10月29日(木)から11月12日(木)まで、枡×アートプロジェクトで製作された作品の展示、『枡×アート展』を開催しました。

枡の日本生産シェア8割を占める大橋量器さんからお話をいただいたことから始まった、『枡アートプロジェクト』。日本古来からある枡の中にアートをするという面白い試みで、情報学部情報デザイン学科プロダクトデザイン専攻の

1年生から4年生までの有志が集い、計25名の学生が夏休み前から取り組んできました。

このプロジェクトは、制限やテーマもなく自由なため、どんなアート作品に仕上げるかは本人の発想次第。3Dプリンターなどを使うか、すべて手作業で行うかも自由。粘土や絵の具、使わなくなった携帯電話の部品など、使う道具や部品も様々。8月3日(月)～7日(金)まで全員で

揃っての作業が行われ、その後は個人で作業を進めました。

展示には個性豊かな作品が飾られ、見る人を楽しませました。今回行われる学内での展示のほか、NY やリスボンなど海外の大学との合同展示 NEW IDEA 展にも出品する予定です。



人 事

●採用

【大学】

<教育職員>(H27.10.1)

井原 禎貴 工学部 総合機械工学科准教授
岡本 洋輔 工学部 建築学科講師
村上 理 情報学部 総合情報学科講師

●昇任

【法人本部】

<事務職員>(H27.10.1)

丸山 義彦 企画調整部 情報室長
上田 賢幸 総務部 総務室長

【高校】

<事務職員>(H27.10.1)

伊藤 彰憲 総務部 高校事務室長

●異動等

【法人本部】

<事務職員>(H27.10.1)

河村 安徳 企画調整部 入試・広報室
石川 常夫 総務部 総務室 主席部員
松下 賢則 企画調整部 情報室 主任部員

【高校】

<事務職員>(H27.10.1)

不破 敏雄 総務部 高校事務室 主任部員

【法人本部】

<事務職員>(H27.11.1)

後藤 菜月 総務部 総務室